

学校長より職員に向けた内容になっています

学校づくりをどのように進めているか、抜粋となりますが参考までにご覧ください。

職員会議資料(上田市立長小学校) 校長室から⑧ 抜粋

令和6年11月13日

西澤直記

一 仲よし旬間中の対話的全校道徳校長講話より子どもの姿

めあて「みんなでかんがえよう」(対話的な校長講話にチャレンジ)

「あいつ 変(へん)じゃね?(あいつ かす だ!)(あの人 むかつく!)(あの人 うざい!)」

友だちから聞いた ちくちくことば その時、自分だったらどうする?

(全校の前で聞いてみた)

ア よろこんでさらに聞かえす……2人

イ ふつうにくわしく聞く「だれ? なにが?…」…20人くらい

ウ あまり聞かない「ふ～ん」…40人くらい

エ「わるぐち 言わない方がいいよ!」注意する…30人くらい

オ そのほか()…5人くらい

2年男子「悪口言わない方がいいよ」

1年男子「どうしてそんなこと言ったの?」

1年男子「先生に言っちゃうよ!」

6年男子「普通に聞き返して、その後理由を聞き、最後に注意する」

6年男子「ア 話にのってしまふ」正直に全校の前で意思表示できた!

4年女子「自分こそ変じゃね!」と言い返す

※他にも手を挙げていたが時間の関係であてられなかった。すみません。



全校の前でも、発言できる子どもが5人ほどいたことと、良くないと思われる意見でも全校の前で手を挙げて意思表示できた。大事なことは、その時の本当の自分に思いがいくこと。そこから思考の深まりが始まる。子どもたちが昨年度に比べて、全校の前でも発言しようとしている姿が校長講話を通して見え始めた。

<高橋さんのコメント(NHK FOR school)>

「自分は変じゃない。自分と違う この人が変。でも自分にも変なところはある

じゃあ あの人にも変じゃない。」
人 と 自分は ちがう。ちがいが ある ことがわかれば、そんなに人のことを言わなくなると思う。その子らしさ 自分らしさ

～悪口をなくすヒント～

みんなで考えましたね🌟🌟☆

続きは各教室でおこなって、みんなでさらになかよくなるために考えましょう。





出典:NHK for school

※今回の縦割り班は、長小祭りでも一緒に行動するグループ

二 連絡 その他

(1) 非違行為根絶を! 「長小から非違行為を絶対に出さない」自分事として考える

○教職員の事故…教職員が加害となる交通事故がこの10月にも発生しています。十分気を付けて時間には余裕をもっ

て勤務していきましょう。

○交通事故後の学校対応…各学級で発達段階に応じて分かるように子どもたちに指導しました。

教務会中心に朝交通整理に出もらい直接指導、ありがとうございます。

朝の登校を見ていると子どもたちの歩行距離がいつもより増えているように思います。また送迎車も減っているように思います。子どもたちの健やかな発育のために、継続して安全指導・歩行ケアをよろしくお願いします。

(2) <祝事> 職員関係

(3) 校長研修より

酒井秀樹教育長のお話の抜粋

「・・・最初のところに 書いたところがありますが、道元禅師の「正法眼蔵随聞記」の中に次のような言葉があります。個人が「霧の中を行けば、覚えざるに衣湿る。良き人に近ければ、覚えざるによき人となるなり。」霧の中を歩けば意識をしていないのにいつの間にか服が湿っていく。同じように 人間的に魅力のある人の中にいれば、自然と自分自身も良い意味で感化されていくんだ。

学校はこの霧の中と同じではないか。学校環境によって子どもたちは自然と感化されていく。いわゆる人生の見本となる良き人というのは、親であったり、先生であったり、なんだろうと思っています。

学校とは、どんな環境を整えて、どんな私たちと出会うことで、子供たちの心をどうしていくのか。それがいわゆる感化する教育。「教育は人なり」という長野県教育が大事にしてきた人格教育になるのではないかなと思っています。今年、学校訪問させていただいた中で、それぞれの学校で、様々な工夫をさせていただきいただいております。大体、「時間、空間、人間」という3つの間が大事になってくるということです・・・」

※算数数学関ブロ長野大会(長野市立南部小・桜が丘中・ホクト文化)に分科会世話係と参加してきました。そこでの清水美憲先生(筑波大学教授 日本数学教育学会会長)のご講演・5年算数授業より…新しい学習指導要領が出たばかりなのに、次の物を継続的に構想している。算数数学は言語教科(国語 英語)

と同じ言語教科。式数表グラフが文字であり文章。「単位量当たりの大きさ」広さ・人数から混み具合を追究。課題⇒まとめへ 数学的考察力の育成 思考力表現力

